

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

英 語

以下の設問すべてに答えなさい。解答は指定のない限りすべて日本語で書くこと。ただし、所定の行数を超える答案は採点しない。

設問1 以下のエッセイを読んで、つぎの問いすべてに答えなさい。

問1 下線部①にあてはまる状況を1行以内で説明しなさい。

問2 下線部②のような文例を日本語で作文するとどのようなものになるか。前段で筆者が示した語句を参考にして例を2行以内で示しなさい。

問3 下線部③は誰のことか、人名を示しなさい。英語でも日本語でもよい。

問4 ここで取り上げられた執筆者のなかで確実に Paul Romer の edict を満たす文章を書いているのは何人か。

問5 ④に入る単語を記しなさい(必要に応じて文法的に正しいように変形すること)。

問6 下線部⑤となる理由を2行以内で述べなさい。

問7 下線部⑥を翻訳しなさい。

(出典: Lucy Kellaway, "Paul Romer's 'and' quota is a false economy: A war of words at the World Bank as chief economist lambasts sloppy writing" *Financial Times*, 5th June 2017.)

慶應義塾大学大学院
2018年度 商学研究科修士課程入試問題

英 語

設問2 以下の記事を読んで、問1から問4のすべてに、4行以内で答えなさい。

問1 著者が各被験者に提示するスライドの順番をわざわざ変更したのはなぜか。

問2 質問紙調査に際して著者が尺度に「どちらでもない (neutral)」を設定しなかったのはなぜか。

問3 本文中の「車種 (car type)」とは、どのようなタイプ群から構成される概念であるか。

問4 本文末尾の「我々の仮説 (our hypothesis)」とは、どのような仮説だと考えられるか。